



真保家の田んぼ



ハウスのビニールを張る丸山さん

二十四節気 **春分** しゅんぶん - 昼と夜の長さがほぼ等しくなります
寒さが和らいでくる頃です

◎◎ はじまります ◎◎

すっかり春らしい天気となりました。

いよいよ農家の皆さんの春作業も本格化してきます。

大規模生産者の方が、トラクターで畦塗(あぜぬり)作業をしている様子も見られるようになりました。

田んぼを見ていると畦塗が終わった田んぼも多く見受けられるようになりました。

南区の生産者、伊勢亀さんは既に播種に向けて、床土を育苗箱に敷き詰める作業を終わらせていました。

農舎の中には、床土を詰めた育苗箱が積み上げられていました。

同じく南区の生産者、丸山さんは先日育苗ハウスのビニールを張っていました。

天候も暖かくなり、天気も良い日が多くなってきたので、多くの農家さんが外に出て準備に取り掛かるようになりました。



畦塗りをした田んぼ



納品した育苗培土



床土を敷き詰めた育苗箱

◎◎ 新品種開発に向けて ◎◎

新潟大学の山崎将紀教授が、地球温暖化に対抗する稲の新品種の選抜を目的としたクラウドファンディングを実施しています。

新潟大学は、高温耐性のあるコシヒカリの新品種「コシヒカリ新潟大学NU1号」を開発したことで知られています。

昨年末には、開発したNU1号のネーミングを募集していました。

近年は、夏に異常な高温・フェーン現象が毎年のように起こっています。記憶に新しいのは、令和元年産。コシヒカリの1等比率が20%程という年がありました。

昔から比べると気候も異常なまでに変化しています。先月、福岡県の大久保肥料合名会社の大久保社長の講演を聞く機会がありましたが、九州は亜熱帯に近いような気候に変化してきていると話しておられました。

米の新品種も高温耐性があるものでないと今後作っていけなくなるのではと思うほどです。

今回の新潟大学の研究も良い方向へ進み、新潟県全体で作付が増える品種が開発されることを願っています。

地球温暖化に対抗する
イネ新品種を
見つけて、食料の
安定供給を!

クラウドファンディング挑戦中

READYFOR

先日、妻と次男が退院し、家族4人での生活が始まりました。
長男も弟の様子を常に気にかけてくれていて、お兄ちゃんらしくなってきました。



お兄ちゃんらしくなりました